

ろくがつつく
六月の句

あさおきて

あくびをしたら なつきたる

朝起きてあくびをしたら夏来る 3年 りゅうじ

うでのばし

あおぞらつかむ つゆはれま

うでのばし青空つかむつゆはれま 3年 光

あじさいの

いろをかぞえる かえりみち

あじさいのいろをかぞえるかえりみち 1年 ももこ

しあわせの

えがおいっぱい さくらんぼ

しあわせのえがおいっぱいさくらんぼ 2年 充輝

たいようの

おすこみたいな トマトかな

太陽の息子みたいなトマトかな 5年 章太

あめのおおくなるきせつです。でも、あめがふると、いきものやおはなは、げんきになります。みなさんも、まけないように、げんきにこえをだしてみましょう。

ふむ 踏む

きむらのぶいこ 木村信子

ふむ なるほど やがてみちになる

ふむ なるほど くさをふむ

ふむ なるほど すぐひがくれる

ふむ なるほど かげをふむ

ふむ なるほど だれでもおとなになる

「ふむ」と「ふむふむなるほど」のよみかたのちがいをきをつけてよみましょう。ひとつひとつのけいけんをかさねてときがたち、おとなになるのです。なるほど、とおもいながら、かみしめてよんでくださいね。



しょういんせんせい
松陰先生のことば・三

およそうまれてひとたらば
よろしくひとのきんじゅうに
ことなるゆえんをしるべし

凡そ生まれて人たらば
宜しく人の禽獸に異なる所以を知るべし

にんげんとしてうまれてきたからには、
どうぶつとちがつところがなければならぬ。
どこがちがうかというど、にんげんは、
どうとくをしり、おこなうことができるから
である。どうとくがおこなわれなければ、
にんげんとはいわぬ。

ろんび 論語・六

こうし 孔子

し いわく 子曰く

てんをうらみず、
ひとをとがめず、
かがくしてじょうたつす

天を怨みず、人を尤めず、下学して上達す

てんをうらんだりせず、人をわるくいわず、
みぢかなことをまんで、じぶんにとりない
ものはなにか、かんがえよう。

ひつぶもこころざしを
うばうべからざるなり

匹夫も志を奪うべからざるなり

たったひとりのひとでも、そのこころざしは
だれからもうばわれない。チャレンジする
というきもちがいちばんたいせつなんだ。

あやまちであらためざる、
これをあやまちという

過ちて改めざる、是れを過ちと謂う

まちがえたことをなおさないことを、
ほんとうのまちがえというんだ。
テストをかえしてもらったら、ちゃんと
みなおして、おなじもんだいをまた
まちがえないようにするんだ。

孔子(こうし) 先生のことばです。

じぶんにとりないものはなにか。こころざしをもとう。
まちがえてなおさないことが、ほんとうのまちがいだ。
どれもたいせつなことば。じぶんをたかめるために
なにをするべきか、みんなでかんがえよう。

『小学生のための論語』(齋藤孝) PHP 研究所より

